

# 強い結果となった7月の米雇用統計

## ポイント① 米雇用統計は強い結果

8月6日に発表された7月の米雇用統計では、非農業部門雇用者数が前月比で94.3万人増加、失業率は前月の5.9%から5.4%に低下しました。州政府・地方政府の教育分野の22万人、娯楽・ホスピタリティー分野の38万人の雇用増加が、今回の雇用者数増加を押し上げました。雇用者数は依然としてコロナ禍前の昨年2月水準を570万人下回っているものの、今後の景気見通しに対してポジティブな結果となりました。

## ポイント② 人手不足は徐々に解消

製造業の分野における雇用も徐々に回復していますが、長期化している供給制約や原材料不足により、苦戦しているようです。非製造業の分野では7月の米ISM（サプライマネジメント協会）非製造業景況感指数が過去最高の水準となり、雇用指数も改善しました。一方、足元では変異株による感染拡大が続いており、今後は感染リスクを恐れた労働参加率の低下が懸念されます。

## ポイント③ 米債券利回りは上昇

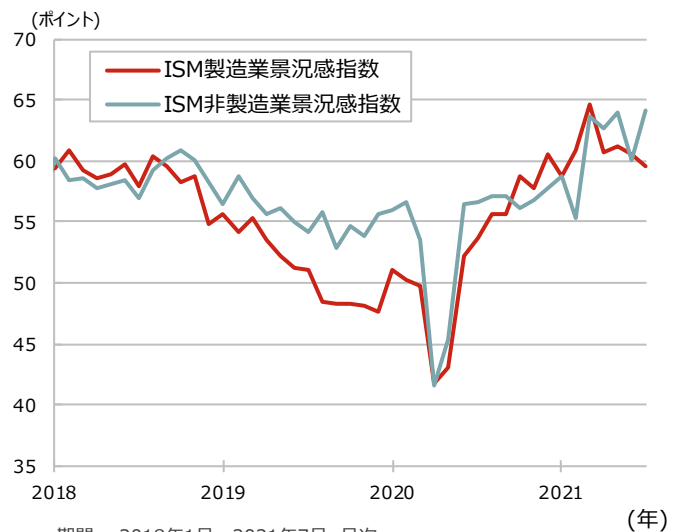
ISM景況感指数が良好だった一方で、4日に発表された7月のADP雇用統計では雇用回復ペースに減速感が見られるなど、米景気指標は強弱入り混じる状況でした。しかし、今回の雇用統計が市場予想を上回る強い結果となったことから、米10年債利回りは1.3%台に上昇、それに伴い米ドルも上昇しました。先週半ばには、FRB（米連邦準備制度理事会）のクラリダ副議長が量的緩和の縮小が年内に発表されると予想していましたが、今回の雇用統計が強かったこともあり、今後の米景気指標には注目が集まるでしょう。

米国の失業率と非農業部門雇用者数

	失業率 (%)	労働参加率 (%)	非農業部門雇用者数 (万人)	
			総数	前月比増減
2020年				
7月	10.2	61.5	13,957	172.6
8月	8.4	61.7	14,115	158.3
9月	7.8	61.4	14,187	71.6
10月	6.9	61.6	14,255	68.0
11月	6.7	61.5	14,281	26.4
12月	6.7	61.5	14,250	-30.6
2021年				
1月	6.3	61.4	14,274	23.3
2月	6.2	61.4	14,327	53.6
3月	6.0	61.5	14,406	78.5
4月	6.1	61.7	14,433	26.9
5月	5.8	61.6	14,494	61.4
6月	5.9	61.6	14,588	93.8
7月	5.4	61.7	14,682	94.3

期間：2020年7月～2021年7月、月次  
注）労働参加率 = 労働力人口 / 生産年齢人口  
（出所）Bloombergより野村アセットマネジメント作成

米ISM景況感指数



期間：2018年1月～2021年7月、月次  
（出所）Bloombergより野村アセットマネジメント作成

重要  
イベント

8月11日 米消費者物価指数（7月）

8月13日 米ミシガン大学消費者マインド指数（8月速報）